

## 教育相談のお知らせ

蝉の声に暑さを覚える時期になりました。さて、本校ではスクールカウンセラーとして臨床心理士の中筋裕子さんをお迎えして教育相談を実施しています。8 月末から 10 月初めの教育相談実施日を下記の通りご案内いたします。

### 記

#### 1. 日 時

なかすじ ゆうこ

#### スクールカウンセラー 中筋 裕子さんの来校日

8 月 : 28 日 (火)

9 月 : 4 日 (火) 11 日 (火) 18 日 (火) 25 日 (火)

10 月 : 9 日 (火)

10 : 30 ~ 11 : 20 (授業中)……保護者からのご相談

11 : 55 ~ 12 : 35 (昼休み)……生徒本人、又は保護者からのご相談

13 : 00 ~ 14 : 50 (授業中)……保護者からのご相談

15 : 05 ~ 16 : 30 (放課後)……生徒本人、又は保護者からのご相談

※ 原則として 1 回の面談時間は、授業中は 50 分、昼休み・放課後は 40 分とします。

#### 2. 場 所 生徒相談室 (本館 1 階)

(生徒相談室前の階段下左手に待合場所があります)

#### 3. 相談申し込み方法

ア) 保護者の方

事前に必ず電話で下記までお問い合わせ下さい。

TEL 06-6303-5661

大阪府北野高校 保健室

イ) 生 徒 (次のうちいずれかで)

- 直接相談室へ行って、中筋さんに話す。
- 保健室前の相談予約カードに記入し、予約カード用ポストに入れる。
- 保健室の先生を通じて申し込む。



6月18日の大阪北部地震では、不安な思いをした人、まだその落ち着かなさが続いている人もいます。震災が起こると、色々な情報が行き交います。そういった情報が交錯する中で、自分たちで判断して動かなければならないことも多いでしょう。しかし、人は多数の人に合わせてしまいがち。ある高校では、最初の揺れが来た時、まだ先生がいない中だったため、教室にいた生徒たちが一斉に校庭に避難した…ということが起こったそうです。揺れが来た時まずすべきは、身を守ること…机に隠れるなどが必要だと、普段の訓練で教わっていても、いざという時は、誰かが取った行動に、多くの人が影響を受けて、危険な判断をしてしまった例です。今回は、集団における、同調圧力（同調しなければならないような圧力）についてお話しします。

グループで楽しく話をしている時、自分は面白いと思っていない話題でも、「それ面白いよね!」と同調して他のメンバーに話を合わせる…そういう体験は、多くの人にあるのではないのでしょうか。そうせねばならないと感じさせる雰囲気や、同調圧力と言います。他愛のない話であれば気になりませんが、人の陰口などに同調すると、自責の念や後味の悪さを感じることもあるかと思います。



M.ドイッチュの研究によると、多数派意見は、少数者に2種類の影響をもたらすとされています。一つは「情動的影響」。人は、正しい判断をしたいと願う傾向があります。その結果、自分でも、多数派の意見を正しいと信じこむ「私的受容」という現象が起きるのです。もう一つは「規範的影響」と言います。人は、周りから好かれたい、嫌われたくない、と願う傾向を持っています。集団の大多数が同じことを言っている場合、個人は周りから嫌われないために、多数者と同じ見解に転じる場合があります。この場合は、内心不同意だけれども、表向き合わせてしまう「公的受容」という現象になります。

しかし、人間は、本来自分の行動と判断を一致させたい心理を強く持っているものです。行動と判断が不一致になる公的受容を、自分の判断を歪めてでもするものでしょうか。S.E アッシュは、実験により、「どの線が一番長いか」というシンプルな問題を出し、多数派の意見が明らかに間違っている場合でも、多くの被験者が多数派意見に同調する（明らかに短い線に対して、一番長いと回答する）ことを示しました。人間は、明らかに自分の判断が正しいと思っていても、本心と違う行動を取ることができてしまうのです。公的受容による同調は、社会生活への適応手段、対人スキルでもあると考えられていますが、こういうことばかりしていると、自分が嫌になってしまいそうですが、これも人間の心理。「自分は弱い」と責めないでください。また、もしかすると、自己嫌悪にならないために、「やっぱりこれは一番長い線なんだ、きっと」と、無理に私的受容をしてしまう…なんてことも起こるのではないかなあ、と思ってしまいます。

公的受容による同調という心理メカニズムは、権威への服従行動においても機能します。S.ミルグラムは、実験により、権威者から命令を受けると人は「代理状態」と言う、個人の責任を感じなくなる状態に陥り、第三者が死亡しかねないほどの電気ショックを与えることができてしまう、というショッキングな結果を発表しています。

世間を騒がせていた、改ざん問題などでも、同じような心理が働いていると思われるし、いじめの問題もしかりでしょう。これは、個人の倫理感や良心を超えて、誰にでも起こりうる現象と考えるべきです。自分の置かれている状況を客観的に捉え、「今自分には、公的受容が起こっている」ということに、まず気づくことが大事ではないのでしょうか。臨床心理学において、精神を安定させるために大切なことの一つは、自分を客観的に観察できる力、内省力とされています。人間には、どのような現象が起こりやすいかを知っておくことで、自分が普通ではない心理状態になっていることに、いち早く気づき、抜け出す手がかりを得ることができるように考えると考えられます。そのためには色々な知識を吸収することも必要ですね！この世界でしなやかに生きていくためにも、一生勉強だなあと思う今日この頃です。

